
EUSA-JAPAN Newsletter

No.18 Mar. 2007

日本EU学会

新理事長メッセージ



庄司 克宏

(慶應義塾大学、ジャン・モネ・チェア)

2006年11月12日、研究大会第2日目に日本EU学会理事長を拝命いたしました。専門はEU法研究です。思い起こせば、初めて日本EC学会(当時)に出席したのは、大学院修士課程に在籍していた1983年第4回大会(成城大学)のときでした。また、初めて学会報告をさせて頂いたのは翌84年の第5回大会(早稲田大学)でした。それ以降ずっと、日本EU学会で研究者として育てて頂きました。

このように学会創立メンバーでもなく、歴代の理事長のようなカリスマ性に欠け、まだ50歳に満たない若輩者ですが、事務局長を7年間務めた経験を活かして、2年間の任期中最善を尽くす所存です。

最大の課題は、前理事長から引き継い

だ理事選挙制の導入です。現行では任命制がとられておりますが、会員数が500人を超えた今、民主的運営の強化のため、2008年(平成20年)秋の次期理事会構成員選出から選挙制を適用する予定であります。そのためには、早急に理事会案をまとめ、会員の皆様に周知したうえで、2007年11月の研究大会の際の総会で承認頂く必要があります。また、これに関連して、理事会活動の一層の透明性強化を考えております。理事会における業務分担その他の情報についてもできる限り開示いたしたいと存じます。

他にも、共通論題の企画力強化、研究大会および年報の一層の質向上など様々な課題に取り組みたいと思料しております。会員の皆様からのメール等による直接のインプットも歓迎いたします。何とぞご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目次

新理事長メッセージ.....	庄司 克宏
寄稿 わが愛しの欧州...	長友 貴樹
事務局からのお知らせ	
広報委員会から	

〔 寄稿 〕

わが愛しの欧州

調布市長

長友 貴樹



〔貿易摩擦に翻弄されて〕

先日、ベルギー王立美術館展に足を運んだ。ブリュッセル、ルーベンス、ヴァン・ダイクなどのいわゆるフランドル絵画を堪能し、ひととき心温まる想いがした。私はとりわけ中世のヨーロッパにおける素朴な農民の生活風景を描写した作品に、以前から心惹かれるものがある。

ジェトロ・ブリュッセル所員としてベルギーに赴任したのは1985年1月のことだった。その冬の欧州は数年ぶりの厳しい寒波に見舞われており、ザベンテン空港に着陸しようとする飛行機の窓から見た住宅街が、まるでクリスマスの砂糖菓子模型のように綺麗な雪景色に包まれていたことを鮮明に覚えている。そのおとぎ話のような情景を目の当たりにしながら、心中は不安感で一杯だった。日本を離れる前にある先輩から「ブリュッセルがこれから欧州で一番忙しくなるぞ」と言われた一言が心に引っかかっていた。

84年から87年にかけての日本製品を

めぐるアンチ・ダンピングの嵐はすさまじいものだった。複写機、電子タイプライター、半導体、ベアリング、船外機等々、20品目にも及ぼんとするダンピング告発はことごとくクロと認定され、高率なアンチ・ダンピング関税が付加された。その結果、当該製品の対欧輸出はきわめて困難となり、現地生産に乗り出す日本企業が急増したことは自然の成り行きと言えよう。しかし、かなり無謀な過当競争を日本企業同士で展開したあげく、燻し出されるように欧州進出を選択せざるを得なかったわが国企業の対欧戦略あるいは倫理観については深く考えさせられるものがあった。

当時は、電子メールこそ存在しなかったが、連日、東京からの指令でファックス用紙があふれた。あれほど忙しいことはその後の社会生活で経験しない。今後もあり得ないと断言できる。業務量は飛躍的に増大したが、わが身の処理能力はとてつ追いつかない。週末を含め来る日も来る日も残業に追われ、家族をいたわるいとますらもち得ない。優雅な海外駐在などとはおよそ無縁な日々が続いていた。

〔激動の欧州に身を置いて〕

ベルギーに赴任した85年はまた、欧州統合が本格的にスタートした年と言えよう。85年1月に欧州委員会委員長に就任したジャック・ドロールの強いイニシアティブのもとにミラノ欧州理事会(6月)、ルクセンブルク欧州理事会(12月)を経て翌年の単一欧州議定書につながる流れの

中で、EC市場統合の全容が明確となった。

ただ、いまだに日本国内では市場統合による経済的利益を得ることを主因として日本企業の対欧進出(現地生産)が増加したと言う見方が存在するが、これは誤りである。当時、現地に駐在していれば容易に分かったことだが、域内市場白書(85年)、単一欧州議定書(86年)の発表時点では、日本企業の市場統合に関する理解度は極めて低い水準に留まっていた。日本が市場統合に対する認識を深め対応策を検討し始めたのは概ね87年以降、そして、特にその動きが急速となるのは88年のチェッキーニ・レポート公表後であった。日本企業の現地生産が増加した要因は、まず前述したアンチ・ダンピング関税による対欧輸出の断念であり、途中からそれに拍車をかけたのが市場統合であったといえよう。

あれからはや20年の歳月が過ぎようとしている。ベルギーの前後に2度フランスに住み、滞欧生活は通算9年間に及んだ。ECからEUへの流れの中で市場統合、ベルリンの壁崩落、東西冷戦の終焉と何世紀に一度かの欧州の大変動を実感することができた。

今夏、5年ぶりに欧州を訪れた。フランドル絵画のような田園風景を眺めつつ、改めて長期間にわたり欧州でエクサイティングな時を過ごせた幸運をしみじみと感じた。(2006年12月脱稿)

事務局からのお知らせ

◇ 新入会員一覧

2006年11月の理事会で承認された方々

* 氏名(専攻)	所 属
1. 齊藤 淳 (P)	東京大学大学院博士課程(在学)
2. 石塚 史樹 (E)	西南学院大学
3. 浅野 康子 (P)	筑波大学大学院博士課程(在学)
4. 草野 三重子 (P)	日英会議通訳者
5. 中村 登志哉 (P)	長崎シーボルト大学
6. 齊藤 至 (P)	京都大学大学院博士課程(在学)
7. Fuhrmann, Michael (P)	三井物産戦略研究所
8. 小畑 徳彦 (L)	流通科学大学
9. 松澤 祐介 (E)	桜美林大学非常勤講師
10. 吉野 良子 (SC)	創価大学大学院博士課程(修了)
11. 長友 貴樹 (P)	調布市役所
12. 吉田 一康 (L)	上武大学
13. 三浦 元博 (P)	共同通信社
14. 高岡 創 (P)	東京外国語大学大学院博士課程(在学)

◇ 次期(2007)研究大会開催について

- (1) 開催校：神戸大学
- (2) 日 時：2007年11月24-25日
- (3) 共通論題(仮題)：ローマ条約50年
— 到達点と展望

◇ 『日本 EU 学会年報』の割引販売の終了について

2005 年発行の『年報』第 25 号までのバックナンバーについては、在庫一覧や販売方法をニューズレター No.17(Aug.2006)や学会ホームページにてお知らせし、一律 500 円の割引価格で販売を行ってきましたが、本年 3 月末をもちまして割引販売を終了いたします。ご了承ください。

広報委員会から

◇ 暫定体制

2004 年 5 月の日本 EU 学会の広報委員会創設以来、ニューズレターの第 13 号(04 年 9 月)から第 17 号(06 年 8 月)までの五つの充実した号を、三露久男委員長との二人三脚で編集されてきた小久保康之委員が、2006 年 11 月の理事会において『日本 EU 学会年報』の編集委員長に就任されました。それに伴い、これまで広報委員会のなかでホームページを担当してきた岩田が暫定的にニューズレターの編集を行うことになりました。諸般の事情から、発行が大幅に遅れてしまいましたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。本年 5 月の理事会で、広報委員会の正式な新体制と基本方針が決まりましたら、次号にてお知らせ致します。

◇ ニューズレター原稿の募集

広報委員会では、会員の皆様方からのご寄稿を幅広くお待ちしております。最近

のご研究動向、在外研究や出張の成果報告、新任校の様子、日本の EU 研究への提言、日本 EU 学会への要望など、内容は問いません。学会の財政難の折、原稿料をお支払いすることは出来ませんが、積極的にニューズレターを活用していただきたいと思っております。尚、ご寄稿いただいた原稿のニューズレターへの掲載については広報委員会で検討させていただきます。ご要望に添えない場合はご容赦下さい。

分量：横書き 1200 字程度。

期限：随時受け付けますが、ニューズレターの夏・冬年 2 回発行にあわせ、6 月末日と 11 月末日がそれぞれ締め切り日となります。

提出先：広報委員会(岩田)の下記メール・アドレスまで添付ファイル(ワードか一太郎)にてお送り下さい。

日本 EU 学会ニューズレター 第 18 号

(2007 年 3 月 30 日発行)

発行 日本 EU 学会 広報委員会

編集責任者 岩田健治

九州大学経済学部

〒812-8581

福岡市東区箱崎 6-9-1

TEL&FAX : 092-642-4451

E-mail : iwata@en.kyushu-u.ac.jp

.....

日本 EU 学会事務局

同志社大学法学部 鷲江義勝研究室内

〒602-8580

京都市上京区今出川通

烏丸東入玄武町 601

TEL&FAX : 075-251-3620

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/eusa-japan/index.html>